

SDGs 全国フォーラム 2022 滋賀・びわ湖

開催レポート

- 日時：2022年11月12日（土） 9時45分～15時45分
- 会場：滋賀県立県民交流センター（ピアザ淡海） / オンライン
- 参加者数：来場 延べ133名 / オンライン 延べ490名
- アーカイブ：総再生回数 332回（2022年12月22日現在）



- 主催：滋賀県 / 自治総合センター
- 後援：内閣府 / 外務省 / 経済産業省 / 環境省 /
地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム / 国連広報センター / 全国知事会



世界から選ばれる「三方よし・未来よし」の実現に向けて

SDGs 未来都市 滋賀県



Mother Lake Goals
変えよう、あなたと私から

滋賀県は持続可能な
開発目標（SDGs）を支援しています。



■主催者あいさつ

■ 三日月 大造 滋賀県知事



本県では、基本理念に「変わる滋賀 続く幸せ」を掲げ、経済・社会・環境のバランスが取れ、将来世代も含めた誰もが新しい豊かさを感じながら自分らしく生き、良き祖先になるための県政を進めています。また、2019年には、SDGs未来都市の認定を受け、自治体、企業、NPO、大学、県民など、みんなの力でSDGsへの取組を進めてきています。

滋賀県は、近江商人の「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」というSDGsに通じる精神が息づいています。

本フォーラムで、SDGsの実践事例を知っていただき、若い世代を含めたSDGsに取り組む人の想いを感じていただくことで、皆様のSDGsアクションが始まる、そして加速していくきっかけとなることを期待いたします。

■後援メッセージ

■ 武井 俊輔 氏 外務副大臣



持続可能な世界の実現を目指す国際社会全体の目標として、SDGsが2015年に国連で採択されてから7年が経過しました。新型コロナや気候変動、ロシアによるウクライナ侵略によるエネルギーや食料供給の混乱などにより、2030年までのSDGsの達成がより厳しくなっている状況があります。今こそ国際社会の連携が試されています。

SDGs が達成された、しなやかで強靱な、経済と環境の好循環の社会を実現するためには、さらなる行動変容の連鎖が必要です。

私ども政府としても、引き続き、地方自治体をはじめとする様々な分野の関係の皆様と連携しながら、2030年のSDGs達成に向けて、オールジャパンの取組を一層加速させて参りたいと考えております。

■ 根本 かおる 氏 国連広報センター所長



琵琶湖の恵みと共に暮らしておられる滋賀県の皆さんにとって、SDGsは当初から共感できる課題だったのではと思います。

新型コロナウイルス感染症による大きなショックで、ギリギリの生活をしてきた人たちが一気に苦境に陥り、「誰一人取り残さない」というSDGsの大原則への共感が広がりました。日本も例外ではなく、ひとり親世帯や子どもの貧困という問題がコロナを機にあぶり出されています。

SDGsの15年間の実施期間は、早いもので来年、その折り返し地点を迎えます。SDGsの実践は、「負担」ではなく、喜びやより良い未来への入口として考えることが非常に大切だと思います。

自分の選択で、気候変動に歯止めをかけることに繋がるアクションに取り組み、仲間を増やしていけば、社会も変わり、新しい当たり前が生まれる。そうした社会の変化が起きることを願っています。

本日のフォーラムが皆様とのパートナーシップを強め、多くの方々を巻き込んでいく機会になることをお祈りしています。



SDGsにおいて果たす役割が大きいビジネスの分野について、夫馬賢治氏のコーディネートのもと、ビジネスの最先端で活躍中の5名のパネリストによるパネルディスカッションを行いました。

地域に根差したSDGsの取組のあり方、各社がこれまでに行われてきたSDGsの課題や問題点、ビジネスにおけるグローバルなSDGsの潮流、今後のSDGsの可能性とこれからSDGsに取り組む企業へのアドバイスなどのお話をいただきました。最後に、SDGsを絵空事で終わらせないため、未来に向けたメッセージを発信しました。

●コーディネーター



夫馬 賢治 氏

株式会社ニューラル 代表取締役CEO



全国の県や市町村では、地元でのSDGsをどのように本格化させていくかと議論をされていますが、SDGsを本格化させるために常に大事なプレイヤーとして、地元の企業、地元を外からの視点で見られる大企業、これからの未来を創っていくスタートアップ企業、経済界全体を取りまとめていく立場としての金融機関が必要と言われています。そして、スポーツ界が果たす役割も大きい。地元の企業や地元のファンとの接点も多くあります。まさに今日、パネリストの5名の方々は、役者揃えりかなと思っています。

滋賀県はすごいなって率直に感じますね。「三方よし」は滋賀県でみなさんがずっと培ってきた商慣習であり、文化なのかなと思います。是非、誇りを持っていただきたいですし、だからこそ期待があふれる滋賀県になると思います。

●パネリスト



高橋 祥二郎 氏

株式会社 滋賀銀行 取締役頭取



滋賀銀行

SDGsの17の目標の中で、7番から12番までは、企業が取り組まなければ目標は達成しません。滋賀県は環境意識が非常に高く、環境への取り組みを受け入れる企業がとても多いです。企業が取り組む役割をビジネスに落とし込むことはチャレンジですが、こういう雰囲気醸成されることは、我々も頼もしい限りと思っています。

企業の価値は、稼がなければならないという経済的価値と、地域や社会にとってなくてはならない社会的価値の和です。ビジネスを通じてSDGsに取り組むことは、中長期的にそれぞれの企業の価値を高めることです。

アフターコロナの経営は、社会の課題を解決するような取り組みをビジネスに落とし込むことにチャレンジいただきたいと思います。17の目標の背景にあるのは環境問題と格差社会の問題なので、個人個人でやることは大変ですが、小さなことでも取り組むことが、結果として未来に繋がります。





上原 仁 氏 株式会社 滋賀レイクスターズ 代表取締役会長



滋賀レイクスが地域の皆様から愛していただける存在になっているからこそでき上がっている、繋がりの濃いコミュニティをコアにして、社会貢献活動をどんどん進めていけば、より効果的に地域への貢献、ないしはSDGsへの貢献ができるのではないかと考えて、滋賀レイクスはSDGsをリードするクラブになるというテーマを置き、環境、教育、健康寿命に特化して活動しています。

滋賀を世界中に憧れられる地にしたい思いを持って、プロスポーツクラブを経営しています。しかし、滋賀だけでは届かないこともいっぱいあります。レイクスはその地域におけるSDGsのブースターになれる存在だと思っていますが、それぞれの地域毎に分断して取り組んでいるのはもったいない。

横で連携して、全国で繋がって、SDGsのブースターで取り組んでいきたい。プロスポーツクラブに関わっている方、みんな、繋がりましょう！



小玉 恵 氏 たねやグループ 執行役員 経営本部 本部長



お菓子を作るということだけではなく、原材料を作る生産者や販売したお菓子のその先までトータルで見えていくことが、SDGsの「誰一人取り残されない」ということに繋がります。私たちのやっていること、造っている建物、発信している言葉が見えないところで誰かを傷つたりしていないかということは、SDGsが出る前は目を向けられていませんでしたが、SDGsのインクルーシブな考え方においてはとても大事で、企業活動自体は、今あるものを保持するのではなく、もっともっと育てたりするべきではないかという発想に変えていくことが、私たちの次の目標であり、ステップです。

自らが、一人一人が幸せだなと思わないと、周りの幸せだったり、地域のことや環境などに対して、目を向けられない。そういった健全な思考というのは、自分の幸福感から来ると思います。2030年、2050年にはどうなっていたいのだろう？ 自分はどうしたいのだろう？ということ、まずは自分で主体を持ってSDGsを考えてみたり、行動に移せたらいいなと思います。



多田 博子 氏 伊藤忠インターナショナル会社 ワシントン事務所長



欧米では、SDGsに対して、やらされ感や我慢、押し付けはまったくないんですね。何故、彼らがSDGs的なライフスタイルを選択しているかという、それがカッコいいからなんです。それが快適だからなんです。結果としてグリーン、結果としてSDGsになっていることが、欧米の大きな特徴だなと感じています。上から言われているから私たちがやらなければいけないのではなく、自分たちがやりたいからやるというようになっていくとすごく良いです。そういうことが自然に出てくるような形がもっともっと広がっていくと、日本も自然な形でSDGsが定着するんじゃないかと感じます。

日本人としてSDGsを続けていくんだ、SDGsはすごく大事なんだということを守り続けて、心に留めておいてください。日本には本当に美しいSDGs関連の言葉があるなって実感しています。「もったいない」、「いただきます」、「ごちそうさま」、そして、三方よし。こんなに美しい言葉と概念を持つ国は、日本以外にないと思います。SDGsの基本は、地産地消のビジネスだと思っています。地元を良くするためのキラ星のようなビジネスをどんどん立ち上げていただいて、それを私どものような商社が繋いで、世界に発信していく。そういった連携ができればすごく良いなと思います。



井本 望夢 氏 合同会社mitei 代表社員



ブームだからとか、社会の流れ的にやらないとまずいからだとか、アピールのやってみようというのは、データサイエンスやDXの支援に携わっている立場からでもよく目にする光景です。何かやりたいんだけど、どうしようか？ やりたいことは特になく、とりあえずやらないといけない、と相談されます。

SDGsに取り組む入口は何でも良く、その入口から良いように行くか、行かないかというのは、長期的に考えられるかどうかであったり、成功、失敗というのを正しく定義できているかというところにあると思います。取り組むにあたってコストが掛かるとか、社員に理解が得られないといけないとか、そういう大変なところもあると思いますが、中長期的に見ると、利益が出てきたり、社員にとっても嬉しいこともあります。

成功の定義は、データサイエンスにおいても失敗することもありますし、データが足りないところで断念することもあります。しかし、これが足りないということが判るというのも1つの成功であり、次に繋げることが大事です。

ある取り組みを通じて、その企業がSDGsに取り組んでいますというアピールは成功しているかは判りませんが、社会全体にSDGs自体のアピールとしては成功していると思います。大きな企業がそのようなことをすることが、SDGsの広告力になっているからです。

それをきっかけに、若者世代や、SDGsってよく解らない、もっと教えてと思っている人たちにとっては、SDGsの本質を考えることができるのかなと思います。





滋賀県では、琵琶湖版のSDGs「マザーレイクゴールズ（MLGs）」を策定し、身近な琵琶湖を通して、SDGsを考え、実践しています。滋賀県でのSDGsの実践例を、クイズ形式の映像も交えて紹介しました。

●コメンテーター

坂野 晶 氏 一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパン 代表理事

ゴミを拾うとか、食べ物を残さないように頑張るとか、ものすごく小さいことにどうしても思えてしまいますし、これだけやっても意味あるのかなとか、自分1人でやっても意味あるのかなって思いがちです。地域とか自分の範囲を広げて、何人か一緒に取り組み始めるのも、それを続けるために大事なことでありますし、1人の努力だけではなく、みんなの努力にしていくとか、みんなでやるから続くっていうのも大事なことで 思います。大きなことに聞こえるかも知れませんが、そうやって1つ決めて、続ける。是非、皆さん、興味を持ったことを、今日から1つピックアップしてください。



三和 伸彦 滋賀県理事 琵琶湖政策・MLGs推進担当

私もそこそこの年齢になって、いろんなことを若い人に伝えていく、いろんな歴史的なこと、石炭運動を知らない人もいっぱいいる、そういう立場になったということと、私は化学技術職ということもあって、科学的にモノを考えるということを伝えていきたいなと思います。

畠 麻理奈 氏 立命館大学 国際関係学部 2回生 / 一般社団法人インパクトラボ 理事

若者ももっと大人の活動を見ていて、大人も若者が今からどんなふうに通っていくのかというところで、もっと交わる場所があるんじゃないかと期待しています。私もこれから若者の活動や勢いを増やしていければと思いますので、是非、持続可能な社会を目指して、皆さんで頑張っていきたいです。



クイズ 問題

山室木材工業さんでは、木質バイオマスチップを利用したバイオマスボイラーを活用して、温室ハウスである農産物を作っています。それは何でしょう？

正解：マンゴー



クイズ 問題

えり漁で、現在はアユやフナなどが獲れている琵琶湖ですが昭和40年ごろはある漁が盛んでした。一体それは何の漁でしょう？

正解：イケチウガイ

司会 現在の日本が抱えるゴミの課題と、今後どのようにすればゴミが減らせるのでしょうか？

坂野氏 産業廃棄物においては、木屑の割合はものすごく小さくて、3%ぐらいなんです。家庭ゴミの場合は、本来であれば、自然に還っていくはずのものが意外と多く、3割～4割ぐらいが有機物で占めているんですね。食品ロスという言葉も最近非常によく聞こえてきますが、無駄にしないように冷蔵庫の中を頻りにチェックするとか、いろいろできることあるなということを想像いただけるといいなと思いました。

司会 琵琶湖の生態系に関する変化や近年の傾向、琵琶湖に関する取組などを教えてください。

三和 環境の変化、社会の変化が漁業にも大きく影響しているなということを感じます。最近では、水質自体は良くなってきていますが、生態系・生き物の様子がおかしい。そのため、外来種の水草を除去する取組などを行っています。漁業で言えば、琵琶湖に遊びに行くこと、琵琶湖の魚を食べることでサイクルがずっと続いてきたので、私たちは地域にある資源を有効に利用していくことも大事なかなと思います。



セッション2では、教育系YouTuber・葉一氏と、立命館守山高校の東さん、虎姫高校の今中さんの学生2名が、オンラインで繋いで座談会を行い、クイズを振り返りながら、SDGsの活動について話しました。



葉一氏 クイズ、見せてもらいましたが、2問とも外しました（笑） えり漁を知らなかったんですね。実はこういう漁があるんだということを知りましたし、琵琶湖に優しいというキーワードがあって、MLGsの「豊かな魚介類を取り戻そう」という部分にも関わってくると思うんですが、そういった魚の捕り方があるということを知ってもらうことが大事になっていくんだと思うなと感じながら見せてもらいました。

東さん 葉一さんはSDGsの中でも一番これは解決したいというゴールはありますか？

葉一氏 1つ挙げるとしたら、無料で学べる機会を、ということで、YouTubeで活動しているので、4番に「質の高い教育をみんなに」というのがあるので、一番と言われたら、そこかなと思います。欲張らせてもらうと、全部共感しますし、ポジティブな気持ちになるんですけど、あと2つあって、1個が2番の「飢餓をゼロに」。「食」って生きる上ですごく大事な部分ですよ。毎日、ちゃんとしたご飯が食べられる。日本では、あまり飢餓というキーワードはないですけど、でも、貧困世帯がこれだけ日本でも増えている現状があるので、飢餓の部分は解決していきたい。もう1個が、5番の「ジェンダー平等を実現しよう」なんです。これはもともと私の中でホットなキーワードで、この3つはこだわっていきたいと思っています。

東さん 社会問題を解決する上で、葉一さんは何が大切だと考えていますか？

葉一氏 大きな問題を解決する時、意外と個々で活動していたり、想いを持っている方っていらっしゃいますが、個人は「点」なんです。でも、点と点を繋ぐと「線」になるんですよ。それをもっと繋ぐと「面」になるじゃないですか。個人ではなく、地域で、みんなでやるとインパクトが大きくなっていく。インパクトが大きいから、他にも派生していくという流れが絶対必要で、個人でやっている「点」の活動をどうやって「線」で繋げていくか、もっと大きく「面」にしていくかというのも、中よりも外側でコーディネートしていく人が必要になってくるんだろうな。であれば、情報発信をみんながしていくのは、すごく大事なんだろうなと思っています。

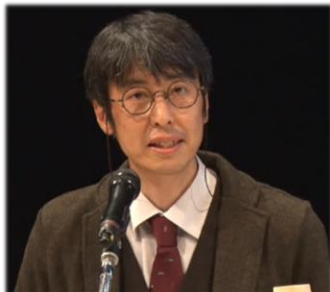
今中さん 様々な教育コンテンツを投稿されている葉一さんですが、葉一さんが考える教育について教えてください。

葉一氏 「選択肢」がもっと増えていったらいいなとは思っています。でも、間違っちゃいけないのが、「選択肢」って新しいものが増えるじゃないですか。新しいものって良く見えるんですよ。キラキラしている。でも、既存の学校教育、例えば、数学って何のために学んだらう？って思うじゃないですか。「何で？」って思う中に、絶対「学び」ってあるんですよ。それってなくしちゃいけないものなんで、既存の中にも価値と意味はあるし、でも、新しい選択肢も必要。そのバランスを整えながら、より選択肢を増やしていくのが大事なんだろうなって思いながら活動してます。



滋賀県では、高校生・大学生をはじめとした若い世代も積極的にSDGsに取り組んでいます。SDGs全国フォーラム2022滋賀・びわ湖 学生実行委員会が中心となって、「ツナガリ」をテーマに、各自のSDGsについての活動や思い、メタバースを活用した新しい繋がりの提案を発信しました。

● モデレーター



上田 洋平 氏

滋賀県立大学
地域共生センター 講師

私たちは、自然・環境とツナガルことでカラダを養い、人とツナガルことでココロを育て、過去や未来、すなわち時間とツナガルことでタマシイを飛ばたかして生きています。そのことを十分解っているはずなのに、環境破壊、社会破壊、未来の破壊が止まりません。人と環境、人と人、人と自然の「ツナガリが病んでしまっている」ようです。「ツナガリが病んでいる」なら、「ツナガリで治す」しかない。ツナガリがなかったのなら新たに結び、ツナガリが断ち切れてしまったのなら繕いを戻す。もしもツナガリすぎているなら、いったんほどいて、いよいよこんがらがっているのなら、時にはエイ、ヤッと断ち切ってみる。いろんなところで、いろんな仕方、結んだり、ほどいたり、からまつたり、ちよんぎったりしている人たちそれぞれの、ツナガリをめぐる話を聞きます。その上で、人と環境、人と人、人と未来がツナガルためのヒントや作法と一緒に紡ぎ出してみます。まずは最初の7つまで。「人と環境・人と人・人と未来がツナガルための7箇条 (seven rules)」を数えてみましょう。

知見を持ち寄って、「人と環境・人と人・人と未来がツナガルための7箇条」を作るため、ツナガルための作法やヒント、心構えやテクニックについて、6人のパネリストと三日月滋賀県知事、モデレーターが、これだと思ふことを発表しました。

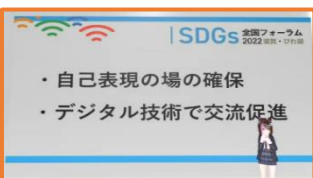
● パネリスト



國武 悠人 氏 NPO法人バーチャルライツ 理事長 ※オンライン参加

自由にいろんなことに取り組んでみるとか、新しいものを作ってみる、ちょっと面白そうだからやってみようというところから、あれ？ これって実は何とか役に立ってるんじゃないの？ っていう、そういう気づきが多く得られるんじゃないか。では、そういう気づきの場ってどうやったら生まれやすくなるんだろうと考えると、やはり自己表現の場がしっかりあるというのがすごく大事になってきます。

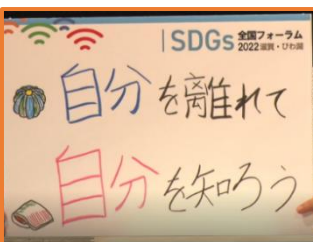
メタバースをやっていると思うのが、遠くの地域の人と気軽に信頼性を持って会話ができる。新しいアイデアとか取り組みとかで、SDGsに繋がるようなものを、どうやって事例の数自体を増やしていくのかと考えると、デジタル技術をしっかり使って交流を促していく場を確保することが重要だと思います。



佐藤 彩香 さん 立命館大学 食マネジメント学部 3年生

自分のアイデンティティを見つけるためには、他者との繋がりがとても大切。それは他の人を思いやるという心もそうですけど、まず自分が何でそういう発言をするのか、自分はどう考えているのかということを知ることが必要です。他者の違いを受け入れるということも大切だと思いますが、自分の違いを自分で受け入れることも必要です。

では、そのために何が必要かって考えた時に、他の人と喋らないと、自分がどうあるのかというのは解らなくて、自分で自分と向き合うということも、すごい大切にされていると思いますが、自分がどう感じているか、自分のアイデンティティが他者との比較で見つけられること、他者との対話で気づくことって多いと思います。一度、自分から離れて、他の人との繋がりの中で、どう自分があるのかということを考えることが大切なんじゃないかなって考えました。



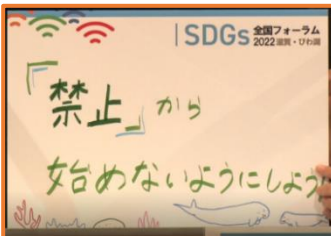


山川 葉 さん 琉球大学 理学部 2回生

今、沖縄ではリゾート施設が増えていて、自由に入れな海が年々増えてきて、釣りも禁止されている場所が多く、貝や魚を自由に獲ることができません。ゴミを家に持ち帰らずにそのまま海に捨てたり、車を停めてはいけな場所に止めたり、禁止にしても、マナーの悪い人は結局、禁止されている場所でも釣りをします。しっかりマナーを守る人だけが損をしています。禁止にするのではなく、もっと違な方法があるのではないかと思ないます。

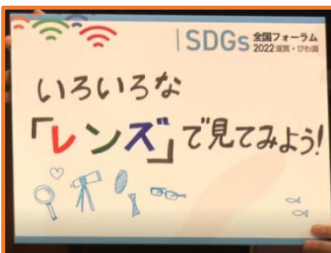
北欧では自然享受権という、森林において所有者でなくとも自由に森に入っ、森を楽しむことができるという制度があります。

禁止にしてしまうと、海と地域の人々の繋がりが減り、海について考える機会も減ります。海に入る回数も増えれば、例えば、魚が減ってきたなとか、最近、同じ種類の魚しか見てないなとか、そういうことがすぐに気づけると思なるので、環境問題について考えるきっかけにもなります。



隼瀬 紗愛 さん 滋賀県立 虎姫高等学校 2年生

レンズは、課題や問題を解決するための解決策とか、ヒントを得るために用いることができるツールだと考えました。「探す」という意味合いの強い虫眼鏡、自分と離れた価値観を眺める望遠鏡、私が今かけている眼鏡のように、常日頃かかっているレンズ。これらのレンズを日々使い分けることによって、自分の言動や自分自身、自分の心の中とか、もしくは委員会の活動が社会にとって、どのような意義があるのか、これからどうなことをやっていけるのか、そういうことを今一度見直せるきっかけになると思ないます。



田口 真太郎 氏 成安造形大学 未来社会デザイン共創機構 助教

「空（くう）」という意味なんですけど、この余白を大事にするのが良いと思ないました。発表していただいた4人は、今の若者を象徴する意見だと思ないました。國武さんは、デジタルの面白さを表現されている。佐藤さんは、対話の効果、重要性というのをこの年齢で理解されている意見だった。山川さんは、上から抑えても意味がない、むしろ破る人は破るし、それを踏まえて、どうなふうにな自分たちが社会を変えていくかという視点だと思ないました。隼瀬さんのレンズの例えも面白いですし、多視点が重要でいろんな視点がないと問題は解決できないよなという発想を持っている。僕らが小さい頃っ、そんな教育受けたっけかなと思なながら話を聞いていました。

最近思なうのは、若い人たちは忙しすぎます。余白が本当になない。全然遊んでないし、コロナで益々人と繋がりにくいし、飲み会がないのは当たり前みたいなところがあっ、すごい真面目だっと思なっていて、僕とか上田先生は余白だけで大学は遊んでいたんじゃないかなと思なうんですけど（笑）良い意味で新しいものを生む時っ余白だとか、遊びは必要だと思ないます。

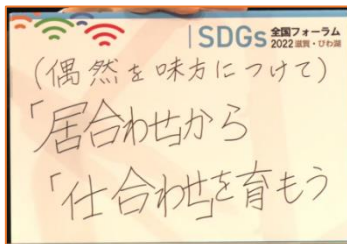
皆さんが取り組んでいることっ、もともと遊び心から、課題を解決したいだとか、問題に取り組みたい、そういうシンプルな思ないから、自分の中の自発的な熱みたいなものからスタートすると思なうので、それがいつの間にか義務感になったり、誰かに言われてやってるみたいなものになっってしまうと、どんどん辛くなったりする。だからこそ、やっぱり余白、遊びっというの意識してほしい。





上田氏：三日月知事に突撃で書いていただいたら、即座に書かれた。歴史と未来を繋ぐものとして、わたしとあなた、自分とみんなを繋ぐものとして、真ん中に愛を据えましょう。滋賀県にとっては、この真ん中の「愛」は「琵琶湖」に変えることができるかも知れませんね。みんながその方向を向いて、それが繋がっていくような存在です。

三日月 大造 知事



上田氏：人生の物語の展開は、思いがけない偶然の出来事で8割決まる、こんな研究があるんですね。好奇心、冒険心、楽観性、柔軟性、継続性の5つを持った人の所には、良い偶然が集まります。

一方で、私たちは、偶然この時代に生まれて、たまたまこの場にいます。全部、偶然なんだけれど、ここに参加するために、ちょっとずつチューニングしながら居合わせています。この「居合わせ」の場を通して、これから、今、お互いが聞いた話を、今日出た7つのヒントを基に、さあ、何をしていくか？ 仕合わせていきましょう。

上田 洋平 氏

そして、完成した7箇条が —

人と環境、人と人、人と未来がツナガルための7箇条

- 一、自己表現の場を確保しよう！ (国武)
- 一、自分を離れて自分と出会おう！ (佐藤)
- 一、「禁止」から始めないようにしよう！ (山川)
- 一、いろいろな「レンズ」で見てみよう！ (牟瀬)
- 一、【 】余白を大切にしよう！ (田口)
- 一、まんなかに「愛」を据えよう！ (三日月)
- 一、(偶然を味方につけて)「居合わせ」から「仕合わせ」を育もう！ (上田)

上田氏：是非、皆さんで8つめを考えて、SDGsの達成、大きな自由の実現に向けて繋がっていきましょう。今日はその1つのきっかけに、居合わせから仕合わせが始まる場になっていたら幸いです。





メインフォーラムと同時進行で、ポスター等により発信SDGsの先行事例を広く共有するとともに、SDGsに積極的に取り組む24の企業・団体・学生同士やフォーラム来場者が交流する場を設けました。

● 出展企業・団体・学校

● **アインズ株式会社**

脱炭素印刷、脱プラ印刷、SDGsイベントについて

● **株式会社 日本旅行**

「人」「風景」「文化」をテーマに、今、ツーリズムにできることは何かを常に考えながら推進してきた様々な取組について

● **BSCウォータースポーツセンター**

子どもたちを巻き込んだ未来への投資について

● **一般社団法人 あもる+**

滋賀県内の企業や団体個人のSDGs事例を集めた「滋賀県版SDGsボードゲーム」、SDGs実践企業と学生が交流できる「コドモとオトナの文化祭イベント」について

● **海をつくる会 名古屋支部**

琵琶湖のゴミは、どうなるの？ 水中清掃や、ゴミを湖内に入らないようにすることの必要性について

● **and step**

子ども×SDGsの体験教室や出張ワークショップの活動について

● **特定非営利活動法人 三方よし研究所**

SDGsへと繋がる経営をしていた近江商人や彼らの後継者、後継企業の経営や社会活動の実例と、私たちが引き継ぐべきものについて

● **株式会社 滋賀レイクスターズ**

プロバスケットボールチーム「滋賀レイクス」が取り組むSDGsについて

● **株式会社 滋賀銀行**

地域の社会的課題解決と経済成長の両立をはかり、持続可能な社会の実現のための行動について

● **伊藤忠商事 株式会社**

滋賀県と伊藤忠商事の取組みについて紹介、滋賀県立図書館に寄贈した外国語絵本を展示

● **琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会**

世界農業遺産に認定された「琵琶湖システム」について

● **花王グループカスタマーマーケティング株式会社**

ボトルに100%再生PETを採用するなど、「アタックZEROの挑戦」について

● **三井住友信託銀行 京都支店・京都四条支店・大津支店**

「SDGsの視点から考える地域と暮らし」をテーマにしたESD（持続可能な開発のための教育）プロジェクトや、京都市、北山杉の利活用者、生産者による建築物等における北山杉の利用促進協定の締結について

- 大阪ガス株式会社**
 Daigasグループの低・脱炭素に向けた取り組みと次世代教育について
- 琵琶湖保全再生課・ONESLASH**
 滋賀県版SDGs「マザーレイクゴールズ（MLGs）」について
- 株式会社 コクヨ工業滋賀**
 琵琶湖のヨシを活用して文具を制作する「ReEDEN（リエデン）プロジェクト」について
- 滋賀県立 虎姫高等学校 新聞部・ピンクマスクデー実行委員会**
 長浜市が取り組む脱炭素やMLGsについて取材した新聞、カナダのピンクシャツデーをヒントにしたピンクマスク運動などについて
- 滋賀県立 水口東高等学校 MSGC（水口東スーパーグローバルクラブ）**
 「防災カルタ」の取組について
- 環びわ湖大学・地域コンソーシアム**
 学生支援事業の取組「SHIGA SDGs Studios」について
- 立命館大学 MLGsイラスト**
 MLGsについてのマンガ制作を通じてMLGs普及活動について
- ゆずタウン**
 VRメタバースを活用した「メタバース不登校生居場所支援プログラム」について
- 立命館守山高等学校**
 メタバースによる多様性の創出により学校と地域との関わりを発展させ得るため、立命館守山高校のメタバース型キャンパス「メタモリ」を通じて学校の在り方を再定義する
- SDGs全国フォーラム2022滋賀・びわ湖 学生実行委員会**
 SDGs全国フォーラム学生実行委員会が作成したツーリズムマップや活動内容について
- 滋賀県立大学**
 学生の力を生かして、地域に学び、育ち、貢献できる場「近江楽座」について





■ 次世代からのメッセージ

戸簾 紗弥香 さん 龍谷大学 社会学部 4回生

滋賀県には、県の中心に琵琶湖があり、県の半分の面積を占める豊かな山々が占めています。そのような私たちが住む滋賀県には、近江商人の三方よしの文化が根付き、昔から自然と人がともに調和したSDGsらしい生活をしてきたと言われていました。

そのような滋賀県には、SDGsの考え方が根付いているにも関わらず、私たちの友人から、SDGsやMLGsは知っているものの、何をしたらよいかわからないということを学生実行委員会の活動を通して耳にしてきました。



葉 琉球 中井 健太 氏 and step 代表

その1つの理由として、SDGsを自分事と捉えて、一步を踏み出す「勇気」が持てないことが挙げられます。今回のフォーラムでは、一部社会人も含めた私たち学生実行委員会が中心となり、VRをツールとしたSDGsの取り組みの発信や別会場で行われているポスター展示などにチャレンジすることで、より多くの方に「私でも何かできそう」という可能性を示し、行動したくなるきっかけを作ることができたと思います。

このように私たちが踏み出した「一步」をその次の世代、さらに先の世代までが誇れるような滋賀県、そして日本を築いていきます。



山川 葉 さん 琉球大学 理学部 2回生

次回のSDGs全国フォーラムは、私の地元、沖縄県で開催されます。これからの社会を担う私たちは年齢や地域、性別や価値観を超えて、様々な方と繋がり、そして、未来に向かって、共に行動をすることが必要だと、本日のフォーラムを通じて、学ぶことができました。

ここでの経験を、まずは私が沖縄へと繋いでいけるように、バトンを引き継ぎます。



■ 次期開催県あいさつ (ビデオメッセージ)

玉城 デニー 沖縄県知事



はいさいぐすーよー ちゅーうがなびら。皆様、こんにちは。
次回の「SDGs全国フォーラム」は、令和6年（2024年）に沖縄県にて開催を予定しております。

本県は亜熱帯海洋性の温暖な気候のもと、生物多様性も豊かで、独自の自然環境が育まれており、芸能 工芸 音楽 食文化など、歴史、風土に根ざした多様な伝統文化が息づいております。

是非、多くの方々にご参加いただき、本県の豊かな自然環境、多様な伝統文化、個性あふれる地域の魅力などに触れていただくと共に、SDGsの達成に向けた様々な具体的活動や、パートナーシップの形成に繋げる機会となることを期待しております。是非、一緒にSDGsについて考え、行動し、誰一人取り残さない社会を一緒に実現していきましょう。

うちなーんかい、めんそーりよ。皆様のお越しを、沖縄でお待ちしております。